

豊科南中学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取組について  
—地域防災学習の実施・学校防災アドバイザー派遣・引き渡し訓練計画—

安曇野市立豊科南中学校

1 はじめに

安曇野市立豊科南中学校は安曇野市の中央に位置し、西に北アルプスを仰ぎ、学区に拾ヶ堰が流れ、水田に囲まれている自然豊かな学校である。豊科中学校が豊科南中学校と豊科北中学校に分かれ、本校は昭和60年に開校した。生徒数300名、各学年3学級、特別支援学級3学級、こども病院の院内学級1学級を含め全13学級の中規模校である。校舎は南と北に1棟ずつであり、1階と2階にそれぞれの校舎をつなぐ渡り廊下が設置されている。北校舎には校庭側（北側）に非常階段があり、すぐに屋外に出られるような構造になっている。

学区内に山や大きな河川があるものの、職員も生徒も防災（特に水害）に対する意識が低い。防災マップの見直しにより、本校が犀川と万水川の二つの河川の浸水区域に指定されたことを意識させ、自分の身を自分で守る意識を高め、緊急時の避難行動が自発的にできる生徒を育てたい。本年度は、昨年度より計画をしていた引き渡しを含む水害に関わる避難訓練を小学校と連携して実施予定だったが、コロナ禍の影響で実施することができなかった。来年度は、今年度の計画を元にして実施に向けて準備を進めていく。

2 本年度実施した避難訓練

(1) 第1回避難訓練（コロナ禍のため中止）

- ① 当初の実施予定日 : 4月27日（水）
- ② 実施内容：避難経路の確認・非常事態への対応 ※放送による

(2) 第2回避難訓練（コロナ禍のため中止）

- ① 実施日 : 9月2日（金）
- ② 実施内容：水災害防災（水防）引渡訓練・職員研修
  - 万水川の氾濫による生徒の保護者引き渡しを想定した水詐欺防災引渡訓練
    - ・オクレンジャーの配信と引き渡し準備
    - ・体育館への避難（水平避難）
    - ・保護者への引き渡し
    - ・3階への避難（垂直避難）

(3) 第3回避難訓練

- ① 実施日 : 11月4日（金）
- ② 実施内容：避難経路の確認・非常事態への対応
  - ア 訓練の意義や火災発生時について各学級で指導
  - イ 火災報知器の作動
  - ウ 避難経路の安全確認 ・避難指示

- エ 生徒と職員の人員確認
- オ 防護団活動（係活動の確認）
- カ 地区別整列練習・人員確認



### 3 本校の避難訓練からの課題

防災マップの改正により、本校は犀川と万水川の浸水想定区域の学校となった。安曇野市作成水防タイムラインに沿った行動を考えると、「氾濫注意情報」が出た段階で保護者への引き渡しを行うことになる。本校は今まで地震や火災を想定した避難訓練は行ってきたが、水害想定での避難訓練や引き渡し訓練を行ったことがなく、本年度、実施予定だったが、やむなく中止とした。来年度は、今年度の計画を元に水害想定での引き渡し訓練を行う必要がある。

### 4 学校防災アドバイザーの関わり

#### 避難訓練参観・事後指導

- ① 実施日 8月9日（火） 10：00～
- ② 指導・助言
  - ア 保護者が引き取りに来たときの駐車場の確保と動線の確認
  - イ 垂直避難・水平避難についての違い  
垂直避難の場合、1階が浸水するとトイレが使用できない。
  - ウ 引き渡しを連絡するタイミング  
氾濫警戒情報で引き渡しでは間に合わない。
  - エ 引き渡しカードの活用

### 5 地域防災学習の計画（コロナ禍の為、中止）

#### (1) 目的

生徒たちが自分たちの地区の防災対策や防災訓練を知ったり様々な奉仕活動を行ったりすることを通して、地域を守り支える大切さを知ったり地域を大切に思ったりする心を養う。

#### (2) 実施日 令和4年5月31日（火） 午後2：30～4：00

- ① 地域防災学習 2：30～ 15分程度
- ② 奉仕活動 3：00～4：00

#### (3) 計画内容

- ア 地域の方々と顔を合わせるにより、どんな人がいるのかの確認、実際に物を使用しての体験(地震体験車乗車、消火栓の使用方法等)をする。
- イ 区長さん、防災リーダーさんからお話を伺う。
- ウ 公民館の防災グッズや公園の防災施設を見学する。

### 6 事業の成果と今後の課題

#### (1) 成果

- ① 学校の立地場所から想定される水害の危険性を職員が意識することができた。

- ② 防災アドバイザーの助言から、生徒引き渡しの具体的なイメージと配慮すべきことを再確認することができた。
- ③ 地域防災学習から、生徒自身が地域の方々から地域防災の仕組みを教わることができ、自分は地域に何ができるのかを主体的に考えることができた。

(2) 課題

- ① コロナ禍の為、2年連続で引き渡し訓練が実施できなかった。来年度の実施に向け、小学校と連携して計画を立案する。
- ② 校内での引き渡し手順をマニュアル化し、保護者と共有する。
- ③ 地域と連携した防災学習や防災訓練をさらに進め、生徒の地域防災への意識を高める。

(文責 教頭 尾臺 博之)

## 穂高東中学校における地域と連携した防災学習の取組について

### － 地域防災の主体としての自分のあり方を考える －

安曇野市立穂高東中学校

#### 1 はじめに

令和4年度安曇野市立穂高東中学校は、19学級（うち特別支援学級5学級）、全校生徒数460名、職員数48名で構成されている。平成13(2001)年に旧穂高中学校が東西2校へと分かれた後も、市内では規模が大きな学校である。

本校所在地西側には、北アルプスが連なっている。学区東側では活断層の存在が指摘されており、安曇野市地域防災の「ゆれやすさマップ」では震度6弱が想定されている。また、北アルプスを源流とするいくつもの河川が学区内を流れている。学区内は、浸水想定区域や土砂災害警戒区域には入っていないが、川の周辺域や四方に張り巡らされた堰や用水路からの浸水の可能性がないとは言えない。

本校では、6年前から「地域と連携した防災学習」を実施してきた。在宅時における災害等、緊急時の避難経路や誘導方法に関する知識を知り、適切な判断と行動により、安全に避難ができるようにするとともに、中学生も地域の一員として、災害時にできることは、進んで協力する心構えをもてるようにするためである。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大対策により、令和2、3年度と実施できなかった。この2年間で地域の区長が替わったり、校内でも1度も本活動を経験せずに卒業してしまう生徒が出てきたりすること、そして教職員も異動により経験者が減ってしまうといった懸念がある。こうした状況を打破するために、十分に感染対策を講じた上で、本年度は実施にすることにした。

なお、本校の防災学習は、学校防災支援アドバイザーとして、信州大学教育学部教授の廣内大助先生をお迎えし、助言をいただきながら進めてきた。「地域と連携した防災学習」については、本年度から信州大学学術研究・産学官連携推進機構の本間喜子助教のご指導、長野県教育委員会保健厚生課、安曇野市危機管理課等の協力を得て実施している。

#### 2 「地域と連携した防災学習」の実際

##### (1) 目的

- ① 中学生が地域防災に対する当事者意識をもてるようにする。
- ② 在宅時における災害等、緊急時の避難経路や誘導方法に関する知識を知り、適切な判断と行動により、安全に避難ができるようにする。
- ③ 地域の一員として、災害時にできることは進んで協力する心構えをもてるようにする。

##### (2) 実施までの経過

- ① 学校長による穂高地域区長会での趣旨説明と協力依頼

4月実施の区長会で、活動の意義と内容について次の内容で説明し、協力を依頼した。

- (ア) 地域の皆様との体験的な学びを通し、中学生が地域防災に対する当事者意識をもてるようにするとともに、地域の一員として、災害時にできることは、進んで協力しようという心構えをもつことができるようにしたい。
- (イ) 在宅時における災害等、緊急時の避難経路や誘導方法に関する知識を知り、適切な判断と行動により、安全に避難ができるようにしたい。
- (ウ) 成長過程の途上にある中学生が、地域に住む「良い大人」と出会うことを通して、その考え方や生き方に触れる機会としたい。

## ② 校外生徒会と区長会による事前打合せ

①の後、防災安全係から区長宛に「地域と連携した防災訓練」実施案作成を依頼した。夏季休業前に、区長と地区生徒会の各地区長、担当職員が一堂に会して、実施案を検討した。



打合せでは、学校の中だけでは分からない、各地区の実情、地域で求められている学校や若者の役割について、たくさんのご意見を寄せていただいた。各地区の生徒代表者も、活動内容について中学生ならではの感性でアイデアを出していた。

③ 安曇野市危機管理課、穂高消防署との連携

2の(1)は、行政でも同様の課題を抱えている。地域防災の将来の担い手育成や、本学習を持続可能な活動としていくには組織間の連携は欠かせない。危機管理課と消防署には、各区長から寄せられる相談や依頼の対応、当日は現地支援をお願いした。また、実施後のふり返りでは、次年度に向けた改善策について指導していただくようお願いした。

## (3) 活動の実際

「中学生が活躍する地域っていいですね」当日にご指導いただいた本間助教のつぶやきである。非常用担架の作成や使用、消火器や消火栓のあつかい方、非常用テントの設営、災害時の行動手順の確認、防災倉庫の見学や点検など、区ごとに区長と地区生徒会長で計画した活動内容は多彩であった。

### 防災減災アドバイザー 本間喜子先生のご指導

防災学習は楽しく、避難訓練や実際の場面では真剣に。これが大切である。若者、特に中高生は地域と家庭をつなぐキーパーソン。地域に住む人たちと中学生と一緒に何かをすることは価値がある。地域防災以外にも役に立つ。「その時、自分だったらどうするか」それを考えるためには、様々な経験が必要。東中は、学校以外で学ぶ機会がある。このことは、他地域の見本となる。広げていきたい。



生徒の様子や感想は次のとおりである。



- ・東日本大震災の時の「釜石の奇跡」は、日頃の避難訓練と中学生が率先して動いたからこそ、周辺の人たちほぼ全員が無事だったと聞いた。自分も率先して動く、可能な範囲で手伝う・・・、そんな中学生でいたい。
- ・大きな地震は50～100年に1回はくると言っていた。ということは、自分が生きている間には1回はくる。普段から備えや対策をしておくことが必要だ。大人になった日に地域防災を担う一人になることを意識して、今、大人がしていることを見て学んでいきたい。
- ・自分の身は自分で守るけれど、困っている人がいたら声をかけたり荷物を持ったりしてあげたい。避難所では、周りの行動を見て自分から動ける人になりたい。
- ・「特別なことはしなくてもいい。けれど、今日の体験や感想を家に帰ってから家族に伝えたり、学校で友だちと話したりすることがとても大切。」というお話が印象に残った。自分自身は、いつくるかわからない災害に備えて、消火器の使い方など忘れないようにしていきたい。
- ・私の家では、災害に備えたものがまとめられていないので、家族でどこに置いておくのかを決めておきたいと思った。また、家族ではぐれないように、どこに避難するかも決めておきたい。
- ・消火栓が家の近くにあることは知っていたけれど、中がどうなっているか、どう使うか、災害が起きたときにどんな行動をとるべきかなど、不安な部分について知れたのが良かった。

本校学校目標の一つに「人から学ぶ」がある。生徒は学校関係者以外と授業内容を考え、地域住民が先生となり、地域に出て活動していく。生徒には、地域で生活している大人のかっこいい生き方に触れたり、こんな所にも良い大人がいることに気付いたりして欲しい。この「地域と連携した防災学習」がその象徴的な取組である。若い頃から地域と結びつくこうした経験が、いずれ地域の担い手として主体的に関わっていく個を育て、有事の際に考えて動く力が発揮されることを期待したい。（文責：教頭 保科 潔）

# 安曇野市立三郷中学校における防災管理、防災教育に向けた取組について

## － 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 －

### 安曇野市立三郷中学校

#### 1 はじめに

本校は、安曇野市の南部、松本市と隣接する場所に位置する、全校生徒 470 名の中学校である。西には、北アルプスの山々がそびえ、南には梓川、東には犀川などの大きな河川に近い土地である。学区は、梓川及び黒沢川の扇状地上の緩やかな傾斜地に広がっている。本校は、これらの河川により形成された扇状地堆積物の上に立地している。

このような土地に立地する本校の近辺には糸魚川－静岡構造線が存在し、今後 30 年以内に震度 6 弱以上の地震が発生する可能性が高いと言われている。このため地震発生時には、安全かつ迅速な対応が求められる。

そこで本校は、令和元年度から「学校安全総合支援事業」に加わり、学校アドバイザーとして信州大学教育学部教授 廣内 大助先生を講師にお迎えし、助言を頂きながら、緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練を実施するなどの取組を行ってきて 4 年目を迎えている。

#### 2 安曇野市三郷中学校の防災体制について（概要）

##### (1) 本部

本部設置（原則として校庭） 本部用品の持出し  
火災発生時の通報、通告、指令、渉外 避難状況の観察

##### (2) 救護

日常の薬品類、担架等の所在把握、持出し 治療活動（応急処置）

##### (3) 消火係

日常の消火栓の場所の確認、点検・整備、取り扱い方法の確認  
指令により初期消火

##### (4) 消火器係

日常の消火器の場所の確認 指令により初期消火

##### (5) 警備係

指令により、校舎周辺及び搬出物の確認監視

##### (6) 誘導係

消防車・救急車の安全かつ適当な場所への誘導



(7) 点検扉係

残留生徒の確認 防火扉の閉扉

3 学校防災アドバイザーの関わり

(1) 学校防災アドバイザー—廣内大助先生による学校訪問時のご指導 令和4年9月8日(木)実施

① 3年計画作成について

- ・当初作成してあった5ヶ年計画よりも3年周期の方が、生徒がひと通りの経験ができるということで、3年計画作成をしてみようという助言をいただいた。
- ・3年間で異なる状況を想定した訓練を実施できるように配慮する。
- ・毎年、同じ訓練を繰り返すのではなく、ひと工夫してみしてほしい。

② 第2回避難訓練について

- ・地震の際に停電することが多いため、放送が使用できない想定で訓練してはどうか。
- ・生徒が校舎に残っていないかの確認の際、①必ず「誰かいますか？」と声を出して確認する、②トイレは(男女問わず)個室もすべて目視で確認する、③教室は確認したら黒板に「○」を書いておく、ことが望ましい。

(2) 廣内大助先生のご指導を受けて

① 三郷中学校防災訓練3年計画

以下のように3年間のサイクルを作成した。ただし、引き渡し訓練は2年に1度の訓練とする。

防災訓練3年計画				
				安曇野市立三郷中学校
	4月	5月	9月初旬	10月末
<b>1年目</b>	避難訓練(火災)(1h) 授業中(告知あり) 出火場所:調理室 登校時指導		シェイクアウト訓練(0.5h)	避難訓練(地震・火災)(1h) 授業中(告知なし) 放送機器故障 出火場所:第1理科室
R4,7,10,13				
<b>2年目</b>	避難訓練(火災)(1h) 授業中(告知あり) 防火扉閉め避難 出火場所:第1美術室	避難訓練(隔年R5,7,9) シェイクアウト訓練 引き渡し訓練 小中合同	シェイクアウト訓練(0.5h)	避難訓練(地震・火災)(1h) 休み時間(告知なし) 怪我・行方不明あり 出火場所:技術室
R5,8,11,14				
<b>3年目</b>	避難訓練(火災)(1h) 授業中(告知あり) 出火場所:被服室 登校時指導		シェイクアウト訓練(0.5h) 避難所生活学習	避難訓練(水害)(1h) 校外避難場所へ避難
R6,9,12,15				

② 地震発生とそれに伴う停電および火災発生(生徒への告知なし)の避難訓練の実施

ア 実施日時 令和4年10月24日(月)第2校時

イ 訓練内容

- ・生徒に訓練実施日時について事前告知しない。
- ・地震発生と、地震に伴う火災発生における対応。
- ・地震に伴い停電となり、放送が使用できない状況での避難。
- ・生徒の安全かつ迅速な避難と職員の避難誘導。



- ・校舎の巡視点検における確認事項徹底。
- ・避難完了時の人員掌握の的確化。

#### ウ 訓練の経過

段階	時間	職員の活動	説明
速報～地震発生	9:47	○緊急地震速報を流す（教務主任） ○全員、机の下に入る。ガラスの近くから離れるなど安全対策をとる。 ○職員は付近の状況を確認し、避難経路を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机の下に入り次の指示を待つ。</li> <li>・音が鳴った瞬間にすばやく入る（事前指導）</li> <li>・全員静かにし放送を待つ。</li> <li>・放送を最後まで静かに聞く。</li> </ul>
	9:49	○職員室にいた職員は分担して校舎を確認し報告する。	
	9:50	○警報ベルにより火災発生を知らせる。	
火災発生通告	9:53	○（地震による停電を想定）メガホンにより指示（3名）	・静かに指示を聞かせる。
避難通告	9:54	○避難経路に従って避難。 *雨天の場合は、講堂へ避難。 ※状況によっては教科担任の判断で先に避難することも必要	○教科担任の指示（大きな声で、明確に！）、落ち着いて安全に避難できるようにする。 ・窓を閉め、カーテンを開ける。 ・口をハンカチなどでおおわせる。
校外機関への連絡通報訓練	9:55	○通報訓練	
一次段階巡視点検	9:55	○授業のない職員は職員室集合し、生徒がトイレや教室に残っていないか確認しながら避難。	○確認方法 ・必ず目視 ・「誰かいますか？」などと声を出して確認
避難	9:54	○避難場所へ本部設置	・トイレは個室もすべて目視（男女問わず） ・教室は確認したら黒板に○を書く（直径30cm程度）
人員報告及び避難確認報告	9:58	○本部は、各学級・学年職員及び巡視の報告を受ける（教頭）	
避難完了	10:02	○避難完了報告	

#### エ 廣内大助先生のご指導より

- ・今回の想定においては、とてもよく行動できていた。特に、避難指示の肉声がとても大きくてすばらしかった。
- ・校舎を巡視した職員が黒板に○をつけることができていなかった。
- ・特別教室での対応方法をはり紙で示したらどうか。例えば、理科室の物（落下すると危険な物）、音楽室での対応（机がないので、真ん中に集まる、倒れそうなものから離れるなど）、家庭科室でアイロンを使用していたらどうするか。これらを1回の訓練で1カ所ずつ検討し、対応していったらどうか。
- ・車イスの人の避難については、おんぶして避難することがもっとも有効。車イスを運ぶ生徒を

決めておくとよい。

- ・登下校中に大地震があった場合は、危険個所の把握、安全マップの活用、自分で考える力、倒れる物落ちてくる物は何か、といった点について、生徒と一緒に考えていくとよい。
- ・来年度の引き渡し訓練に向けて、安否確認はオクレンジャーで行い、オクレンジャーで確認できない場合は電話を使うことになる。
- ・「三郷中学校防災訓練3年計画」については、「水害」の訓練は1h必要。垂直避難は最終手段であるため、その前により安全な場所に避難すべき。ハザードマップを見て避難場所を学校で決め、そちらへの避難の訓練をするとよい。2年目だと忙しいため、3年目の訓練と入れ替えて実施してはどうか。

#### 4 事業の成果及び今後の課題

- (1) 事業4年目となり、廣内先生から継続的にいただけてきたことで毎年同じ訓練の繰り返しではなく、実際に発生する状況を想定しての訓練を実施することができてきている。「防災訓練3年計画」の作成にあたって、具体的な例を示していただき、学校の実情に則して計画し、さらに助言をいただいたことでより実用的な訓練を計画できてきている。



- (2) 地震によって放送設備が使用できない状況を想定しての訓練は、本校にとって初めての試みだった。複雑な構造の校舎であるため、放送を使わずに全校に正確かつ迅速に指示することの難しさを改めて確認することができた。
- (3) 災害時の対応の仕方について、教職員だけではどのような方法が最適なのか分からないというのが実情であり、廣内先生のような防災アドバイザーに相談できることは、非常に有効である。今年度の本校では、「車椅子の生徒をどのように避難させるのか」「登下校中に大地震があったら生徒はどのように対応したらよいか」などの疑問が、職員や生徒から出てきた。これに廣内先生からアドバイスをいただき、非常にありがたかった。
- (4) 来年度は、「3年計画」にあるように、本校では初めて三郷小学校と連携して引き渡し訓練を実施したい。

(文責 教諭 三村徹)

令和4年度 学校安全総合支援事業の取組について

－ 小学校と連携した避難訓練・引き渡し訓練の実施について －

安曇野市立堀金中学校

1 はじめに (立地条件・児童・生徒数)

堀金中学校(生徒276名)、堀金小学校(児童420名)の所在地は、ともに安曇野市堀金烏川で、1kmほど離れた場所に立地している。両校に子どもが在籍している家庭も多い。

2 安曇野市立堀金中学校の防災教育について

(1)方針

火災、地震などの災害に関わる安全指導を行い、生徒自身の災害時における行動全般の理解と、安全に対する意識の向上を図る。また、災害時等に適切に対応できるように地域や小学校と連携した訓練を行う。

(2)運営 学校防災、安全指導

①避難訓練

4月21日(木) 避難訓練① … 避難経路や防護団活動等の確認

6月27日(月) 避難訓練② … ショート訓練(地震)

8月26日(金) 避難訓練③ … 小中合同引き渡し訓練

11月8日(火) 避難訓練④ … 地域と連携した防災訓練

②施設の点検(安全点検) … 毎月第1月曜日を防災の日に設定し確実にを行う。

(3)登校生徒数一元管理について

毎日、登校生徒数を一元管理する用紙を職員室前に掲示している。これは、有事の際、この用紙を持って避難することにより、登校生徒数を正確に把握するためである。

養護教諭が、健康観察簿を元に一元管理の用紙を作成し、2時間目開始前までに職員室前に掲示する。

3 小学校と連携した避難訓練・引き渡し訓練について

(1)目的

- ・一次避難場所(校庭、雨天時は体育館)から保護者に引き渡すことを決定し、教室に戻って帰り支度をした生徒を、保護者の方への引き渡しを速やかに且つ確実にできるようにする。
- ・オクレンジャー等を使って保護者に連絡し、各学年指定された駐車場に駐車し、待

機場所（体育館または各教室）で生徒の引き渡しを行うことを確認する。

(2) 日時・日程

令和4年8月26日（金） 14:20～16:10

(3) 内容

- ① 日頃の防災意識と行動等の学習【事前に学級担任が指導】
- ② 地震を想定した避難訓練（集合・点呼）
- ③ 災害時の保護者への引き渡し訓練

行動の概要

時間	活 動 内 容
14:22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急地震速報機作動（防災係）</li> <li>・一斉放送：地震発生（教頭先生）・待機指示</li> <li>・職員による校内の安全確認 北校舎2名、中校舎2名、南校舎2名</li> <li>・避難の可否判断、一次避難場所の選定 ※一次避難場所：校庭、雨天時は体育館</li> <li>・本部設置者：旗を持って校庭に移動。</li> <li>・登校生徒数の把握用紙、緊急連絡カードの持ち出し</li> </ul>
14:25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉放送：避難指示（教頭先生）</li> </ul>
14:26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難 学級担任による人数と欠席者確認。 学級担任→学年主任→教頭へ報告 教頭より校長へ、生徒全員の避難完了の報告</li> </ul>
14:24	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員人数確認</li> </ul>
14:35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防護団活動（職員） 係活動の確認 市教委への報告（教頭）</li> </ul>
14:38	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練完了</li> </ul>
14:38	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめの会 全体講評：本間 喜子 先生</li> </ul>
14:43	<ul style="list-style-type: none"> <li>○引き渡し訓練開始</li> <li>・生徒：教室へ戻り、待機 指導・保護者対応：学級担任</li> <li>・副担任：駐車場・昇降口へ移動→交通整理・保護者対応</li> </ul>
14:45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務主任：オクレンジャーにて保護者へ連絡 「規模地震発生による生徒引き渡し実施」</li> </ul>
15:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇引き渡し開始</li> <li>・担任：教室入口付近で待機、引き取り人の対応</li> <li>・引き渡しが完了した学級は学年に報告</li> </ul>

	全学級の引き渡しを終了した学年は教頭へ報告 16：00頃までに引き取りに来ない保護者へ連絡
16：00	・引き渡し終了確認
16：15	・防災教育係指導：本間先生より

#### 4 学校防災アドバイザーの関わり

##### (1) 学校防災アドバイザー

本間 喜子 先生（信州大学）

##### (2) 指導の概要

- ・ 事前：メールにて実施計画の送付
- ・ 当日：避難訓練の視察  
避難訓練の講評  
引き渡し訓練の視察  
係職員への指導



##### (3) 指導内容

###### A 避難訓練について

- ・ 避難開始は一斉に開始せずに、安全確認ができた場所から避難を開始するとよい。避難までの待機時間が短縮でき、混雑も避けられる。
- ・ 訓練と実際に災害が発生した場合には対応が異なる。大規模地震が発生した場合、校舎に戻れるかどうかの判断は、教育委員会が安全確認を行って判断する。場合によっては校舎に入れない事も考えられる。
- ・ 引き渡しまで屋外で待機する可能性が非常に高いので、対策を詳細に検討して備えておかねばならない。
- ・ 発生が夏季（高温）の場合、必要な水等を確保して、待機中の熱中症に備えておくことが必要になる。そのため、備蓄庫が不可欠であり、必要な物品を十分に検討し、揃えておくことが必要である。
- ・ 長時間の待機に備えた対応として、持病やアレルギー等に備えた携帯品等の用意も必要となる。

###### B 引き渡し訓練

- ・ 大規模な地震が発生した場合には通行できない道が発生し、引き受け者の中学校への到着が遅くなる可能性が高い。特に、発生時に保護者が遠方にいる場合は、学校に近い場所にいる祖父母や親戚等に引き受けを依頼する可能性がある。このような場合、引き受けに来た方が生徒の学年、組を知らないとスムーズに引き渡しを行えなくなる。このような場合を想定して、各家庭で引き渡しをお願いする可能性がある方に、生徒の学年、組を知らせておいていただくことか、依頼する際に伝えていただくことが必要になる。
- ・ 待機している間に不安な様子の生徒はいないかに気を配り、そのような生徒への対応を事前に考えておいてほしい。



- ・ 駐車場には職員が配置されていたが、安全に行動できていたか確認しておいてほしい。
- ・ 一斉に下校させない理由（＝登校している生徒全員を無事に帰宅させるため）を生徒及び保護者に伝えておく必要がある。
- ・ 当日引き受け者が来ることができない旨を事前に把握していた生徒については16:00まで待機させた後に徒歩で下校させたが、災害発生時にはどう対応するのか決めておくことも必要である。



## 5 事業の成果及び今後の課題

- ・ 避難及び引き渡し訓練自体は大きな混乱もなく行うことができた。
- ・ 引き渡し訓練は初めて行ったが、引き渡しの連絡が送られる前に迎いの車で駐車場が埋まっていた。引き渡し訓練の目的や意義が保護者に充分伝えられていなかったことを感じる。
- ・ 駐車場での職員の対応について、事前に担当職員が分担場所で具体的な打ち合わせを行う必要があった。保護者にも、駐車場への出入り口や道路の進み方等、事前に詳細な説明をしておく必要があった。
- ・ 本間先生には、訓練と実際に災害が発生した際の対応とでは大きく異なることを指摘していただいた。特に屋外で長時間待機せざるを得ない場合の対応は詳細に検討、準備を進めることが急務である。

## 6 まとめ

- ・ 引き渡し訓練については、初めての実践だったこともあり、非常に多くの、重大な課題が見つかった。この情報を小学校と共有した上で、合同で次年度以降の訓練実施計画を作成していかなければならない。

（文責 教諭・防災教育係主任 嶋田 尚）

裾花小学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取組について  
地域との連携・避難所開設訓練から

— 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 —

長野市立裾花小学校

1 はじめに

本校は、学校の西側を裾花川、南側を犀川と裾花川との合流点に面し、水害発生時の行動や避難について、地域や学校も関心を深めてきている。

戦後まもなくの昭和 24 年 9 月には、豪雨により裾花川の堤防が長い距離に渡って決壊し、周辺一带に大きな被害をもたらした。

裾花小学校の開校は、それより 6 年後のことになるが、現在も校庭西側（裾花川側）にあり、学校のシンボルツリーとなっているポプラの木は、当時の人々が水害から地域を守るための願いが込められていると伝えられている。

現在は、上流の裾花ダムの完成により、大きな被害こそ出ていないが、近年の異常気象や水害の記憶の風化とともに、これから防災意識をどう育てていくかが急務の課題となってきた。

今年度は、5 学年が、総合的な学習の時間を使って防災を学んだり、地域との防災訓練を体験したりすることで、子どもたちが主体的に防災に関わろうとする芽を育てる体験的な学習を進めてきた。

2 長野市立裾花小学校の防災体制について（課題）

(1) 裾花小学校は、土砂災害の避難場所に指定されている。避難所開設マニュアルもある。しかし、緊急時には職員としての動きや、地域の方の誘導方法など、わからないことが多く危機管理上不安を感じる状況であった。

(2) 地域の方からも、「避難所になっているが、本当に開設されるのか」「学校と一緒に訓練を行った方がよいのではないか」という声が上がっていた。このように地域の方にも不安を抱かせる状況であった。

3 今年度の主な取組について

(1) マイタイムラインを作成しよう（5 学年防災教育）

①ねらい

ア 気象学習の発展と関わりから、最近の豪雨がもたらす危険について理解を深める。

イ マイタイムライン（避難計画）の作成を通して、避難に必要な知識、心構えを身につける。

②活動の内容

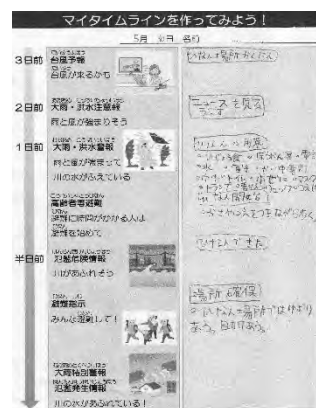
ア 期日：5 月 30 日 2・3 校時

- イ 参加者：5学年 97人 担任3名
- ウ 講師：テレビ信州 気象予報士・防災士 鈴木智絵さん
- エ 科学的な実験・体験を通した学び

- ・ペットボトルに雲を作る実験
- ・雲のでき方、雨の降り方から自分の住んでいる場所の危険を察知する。
- ・危険な場所を予め知っておく。考えておく。（もし、ここだったらという自分事として）
- ・マイタイムライン（避難計画）の作成を体験した。
- ・各家庭に帰って、保護者と話し合おう。

オ 子どもの感想から

- ・家に帰ったら、台風のこと豪雨の怖さのことを家族に話して、家族と一緒に避難の仕方を相談したい。
- ・明日かあさってか、いつ起こるかわからない洪水や災害について、ちゃんと考えておかないといけないと思った。



③今後の課題と成果

自分たちが、地域・学校周辺の地理的な特性や、災害についての歴史についてよく知り、一人ではなく、仲間とともに学びあうことを通して、自分事としての「防災」につなげていくよい機会となった。タイムラインの制作をとおして、自分の命は自分で守っていくということ、子どもも避難の主体であること、避難に、積極的にかかわっていけることを子ども自身が感じる事ができた。

また、学校で子どもたちが作成したタイムラインを家庭に持ち帰った、保護者の方の感想に、「台風19号以来、頭の隅に『もしも』ということはあったが、子どもが作ったタイムラインを見せてもらい、具体的な行動計画を何も考えていなかったことを痛感した。」という感想をいただいた。

(2) 地域住民との避難所開設訓練

①ねらい

- ア 大規模災害発生時における避難所開設について、教職員が訓練を通して体得するとともに、防災への危機意識を高める機会とする。
- イ 地域の方と連携した訓練を行うことで、地域とともに防災や減災について考える機会とする。



②活動の内容

- ア 期日：令和4年9月1日（木）9:00～10:00  
（＊児童の防災訓練は、10:00～11:15）
- イ 参加者
  - ・教職員：校長・教頭・学校危機管理担当（湯本）5年3組担任（湯本）
  - ・地域の方：22人
  - ・児童：5年3組 31人
  - ・長野市危機管理課職員：1人

・学校防災アドバイザー：

信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 助 教 本間 喜子

信州大学 教育学部 社会科学教育講座 特任助教 内山 琴絵

ウ 想定及び訓練内容

9：00 長野市震度7相当の地震が発生⇒市本部より開設要請

9：05 開設準備チェックリストにより確認の上、開設準備を行う。

【一次避難】

9：10 開設・市本部への報告（今回は行わない）・避難者の受け入れ

\*避難者名簿の記入

\*避難所内（一時避難：体育館）の割り当て、誘導

\*最低限のルールの確認

9：15 体育館への避難完了

【二次避難】

9：20 校舎の安全が確認され、避難所の開設準備が整ったので、校舎を開放する。

\*避難所の利用範囲、注意事項の張り紙

\*北校舎3階多目的室へ避難誘導

\*北校舎2階ほっとルーム：更衣室等

\*北校舎3階プレールーム2：避難所運営スペース

\*北校舎2階プレールーム1：救護活用スペース

\*北校舎1階～3階トイレ

\*北校舎のみ開放。1、2、6年教室は開放しない。

\*2階：2音前のシャッターを下ろす。

9：30 多目的室への避難完了

【防災学習】

9：30～10：00

地域の方と5年3組児童による防災学習

\*危機管理防災課の出前講座

・避難所で使用する物品紹介

・災害食の試食

・段ボールベッド体験 等



【まとめの会】

10：00～10：10

・児童感想発表

・お礼の言葉

・本間先生、内山先生からの講評



③成果と課題

ア 長野市危機管理課の方のお話から

・地域の方と学校の連携の取組は例がない。地域

の中の避難場所が学校なので、こういう取組は大事である。北校舎の3階に避難できるなら、地域の方も大変ありがたい。

- ・避難所にある備品は、学校職員も子どもたちも何があるか知っておいてほしい。
- イ 信州大学の防災アドバイザーさんから
- ・立ち入り禁止区域が明示されていてよい。張り紙やコーンなどで明らかにしたい。事前にも授業スペースは入れないということを公報しておきたい。
- ウ 地域の区長さんからの話から
- ・地区の避難訓練では、校門の前まで来て「ここが避難所です」と案内するだけだった。このように実際に避難訓練が行えて、ありがたいし、安心する。
- エ 子どもたちの感想から
- ・実際に学校が避難所になる実感が持てた。避難にあたって自分たちも何かできるのではないかという意識が持てた。これからも学んでいきたい。

#### 4 事業と成果および今後の課題

本校は、裾花川に近いので水害時の避難場所としては指定されていない。しかし、今回の地域連携避難訓練を通して、子どもからも声が聞かれた。「もし、学校に自分たちがいて、洪水が起きたら3階だったら全校が助かるかな。」「確かに、ハザードマップには、5mの水位だとあったから、何とかなるかもしれない。」と学んだ情報をつなぎ合わせ、小学生ながらも最良の避難方法を考えようとしていた。

学ぶことで、様々な情報を整理して、自分なりに考えていくことを続けようとする子どもの姿に、大人も気づかされることが多い学びの場となった。

また、地域の皆さんを案内する役をこともたちが担ったことで、普段保護され守られる立場の子どもたちが、自分のできることを通して、避難所開設に積極的に関わろうという気持ちを持てたことも収穫の一つであった。

#### 5 まとめ

地域の方と子どもたちとで避難訓練を行うことで、地域の方の安心感とともに、学校も安心感を持つことができた。

子どもたちと一緒に学んだことから、学校職員も準備や、安全確保について気づかされる点や改善点すべき点が明らかになったので、さらに、避難訓練の中にその視点を取り入れ、防災意識を高めていきたい。

命を守るために「もし、～だったら」「どのような備えが避難者に安心をもたらすか」という視点を大事にして、自分の住む街、働く職場のある地域で何ができるか、学びを積み重ね、学校全体の避難訓練や防災意識の向上に役立てていきたい。

(文責 防災教育担当 湯本 英晴)



## 防災教育にかかわる学校安全総合支援事業の取組について

—災害デジタルアーカイブと防災学習支援用ソフトウェアを利用した取組—

### 長野市立加茂小学校

#### 1 はじめに

本校は、県都長野市の西部に位置し、善光寺の近くにある。学区は、長野市を代表する裾花川の近くに、幼稚園から大学まで、多くの学校がある長野市の文教地区となっている。また、茂菅や小田切のような山間地もあり、変化に富んだ広い学区内から、220名の児童が通学している。

#### 2 本校の防災教育

長野市の土砂災害ハザードマップを見ると、本小学校区の多くが土砂災害警戒区域または地滑り危険箇所に入っている。有事の際には、身の安全に気を付けなければならない地域で生活している。そこで、本校では、土砂災害ハザードマップにそれぞれの児童の家の位置を記した所在地マップを作成している。（下図は児童の家を除いたもの）

また、平成28年度から毎年、4年生が信州大学と特定非営利活動法人 Dochubuが開発したソフトウェアを使って防災マップを作っている。このソフトウェアは、タブレット端末とWeb-GISを連動させることで、防災情報の収集を効率化し、児童でも簡単に地図上に情報を書き込み、情報の共有化ができるものである。



#### 3 活動状況【参加者：4年生児童38人、教職員2人】

##### (1) 学習の始まり

防災の学習で、日本にはどのような自然災害があるのか考え、これまでに大きな地震や水害などに見舞われてきたことを学んだ。

また、長野県内にも大きな地震が発生していることを知り、今後も大きな災害が起こる可能性があることも学んだ。そして、もしも災害が起きたらどうなるのか考えていく中で、「命や自分たちの生活を守るためにどのように行動したらよいのか、災害からくらしを守るために誰がどのような取組をしているのか調べていこう」という課題が決まった。

学習が進む中で、地域の安全・危険な場所に関心をもった。そして、「地震が起きたと

きに周囲の状況がどのようになるかを考え、危険な場所を回避するために、自分の住んでいる地域を実際に見て回りたい」という思いが高まった。

そこで、フィールドワークを行い、各々が調べてきた施設や設備の安全性・危険性について考えたり確かめたりすることを通して、一人一人が防災や安全への意識を高め、主体的に防災や安全の学習について取り組んでいった。

## (2) 学習内容

- ①自分たちが住んでいる長野県と教科書に出てくる静岡県の地形を比べ、どのような自然災害があるか考え、課題を設定した。
- ②災害デジタルアーカイブを活用して過去に日本で起きた大きな地震や長野市で起きた大きな地震（神城断層地震）・水害（平成元年台風19号災害）について知った。

### 【子どもたちの気づき】

- ・「地震の被害がすごかったけど、亡くなった人がいないなんてすごい。どうして？」
  - ・「川の水があふれて、いつもは道路や畑のところが水の中になっていて怖い。」
- ③地震や水害が起きると自分たちのくらしはどうなるのか考えた。
  - ④自分の家では、地震や水害に備えてどのような取組をしているのか、各自タブレットで写真を撮り、発表した。
  - ⑤学校では、災害に備えてどのような取組をしているのか考えた。防災倉庫の存在や避難場所の看板に気づいた子どもたちは、誰が設置しているのか疑問をもち、実際に倉庫に行き、確かめることにした。



### 【子どもたちの気づき】

- ・「長野市と住民自治協議会の防災倉庫があった。2つもあってすごい。」
  - ・「予想していたものよりもたくさんの種類があったし、数もたくさんあった。」
- ⑥長野市では、災害から市民を守るためにどのような取組（ハザードマップ・避難所の設定）をしているのか知った。
  - ⑦ハザードマップに載っていない身近な危険や安全対策について調べる活動を行った。自分の家から避難所へ行く場合に気を付けることや安全のためのものを探す目的で通学路を中心に歩き、災害が起きたときに危険があると感じた場所や安全のための工夫と感じた場所の情報をタブレット端末に記録した。地域の方（区長）、廣内先生・大学生（信州大学）に協力していただき、地区ごとに班をつくり、調査活動を行った。「Field ON!」（マップアプリ）を使い、班の仲間で話し合いながら、危険だと思う場所や安全設備だと思う場所を記録していった。



フィールドワークの様子

【子どもたちの気づき】

- ・「空き家の建物の壁にヒビが入っていて、大きな地震が来たらくずれのかもしれない。」
- ・「石が積んであるところは、くずれてきたら危ない。」
- ・「街灯は上に電気があって、落ちてくるかもしれない。上も気を付けなくてはいけない。」
- ・「電柱がたくさんあるけれど、倒れてくるかもしれないので、近くを歩かないように気を付けないといけない。」
- ・「この交差点は、普段も車がぶつかる事故があるので、避難の時には、すごく危険な場所だと思う。」
- ・「崖崩になりそうなどころがあった。」「崖崩にならないように補強してあった。」
- ・「川の水があふれないように広くしてある。」
- ・「加茂神社の横にも防災倉庫があった。」
- ・「神社の柵や鳥居は、倒れないように工夫してあった。」



自分たちが住んでいる見慣れた町・道路だが、災害が起きた時に避難するということを前提に改めて見なおしてみると、今まで気付かなかった発見がたくさんあったようだ。

⑧各班の調査データが統合された防災マップを見ながら、安全・危険な施設や設備について考え、確認をした。また、各グループで特に知らせたい施設や設備を選び、タブレット（ミライシード）にまとめ、発表しあった。

名称	タイムスタンプ
タイムスタンプ	2022111015001441982
ユーザ名	NoName
名称	1
コメント	倒れそう
フロア	
標高	417.1526

安全・危険な場所について確かめ合う  
 (左) 防災マップアプリ  
 (右) ミライシード

#### 4 学校防災アドバイザーの関わり

(1) 本年度の方針についての打合せ：8～10月

防災アドバイザーの信州大学教育学部廣内大助教授と本年度の防災教育の授業内容について直接打合せを行い、具体的な方向が決まったところで、Dochubu や第1地区住民自治協議会の方に連絡をとっていただいた。

(2) ソフトウェアのインストール：10月（廣内教授による依頼）

【参加者：児童38人、教職員2人】

4学年全児童のタブレットにアプリをインストールしていただいた。

(3) 災害デジタルアーカイブの提供：10月

【参加者：児童38人、教職員2人、大学生1人】

廣内教授より、紹介があった災害デジタルアーカイブを活用し、身近にあった災害について、被害状況や救助・復旧・復興のための活動について学んだ。アーカイブの操作は信州大学学生に支援していただいた。

(4) アプリの位置情報設定と動作確認：11月

【参加者：児童38人、教職員2人、大学生3人】

信州大学教育学部学生と担任で、位置情報設定を行い、学生3名と共に、使い方の確認や動作確認を行った。

(5) アプリを使つての現地調査：11月

【参加者：児童38人、教職員2人、地域の方6人、大学生1人】

廣内教授ほか同研究室学生、地域の方に参加していただき、グループごとにフィールドワークを行った。

#### 5 事業の成果

- 災害時を想定し、実際の避難ルートになりそうな場所について検証したことは、大きな災害が起きたときに、自分はどのように避難すると安全なのかということをし現実的に考えることができたことにつながった。自分の命を自分で守るために、とても大切な学びができたと思う。
- 地域の方にも参加していただき現地調査を行うことができた。地域の方に「この場所は、土砂崩れ防止の工事をしたばかりだから安全だよ。」や「向こうの崖は、大きな地震の時に崩れたんだよ。」などと、地域のことを詳しく教えていただき、地域の方々とつながりをもつことができたことがよかった。
- 「Field ON!」（防災マップアプリ）を使うことで、子どもたちが実際に町を歩いて記録したことを簡単にまとめることができ、結果がすぐに見えることで、子どもたちの学習意欲にもつながった。そして、各地域で記録した子どもたちの情報を手軽に共有することで、友だちが調べたことの確認をスムーズに行うことができた。

#### 6 まとめ

子どもたちは、初めに災害の怖さを学んだ。しかし、その災害に対して、多くの公助があることを知り、自分や周りの方の命を守るために自分は何ができるのかも考え、防災意識を高める学習となった。

（文責 防災教育担当 横田真由美）